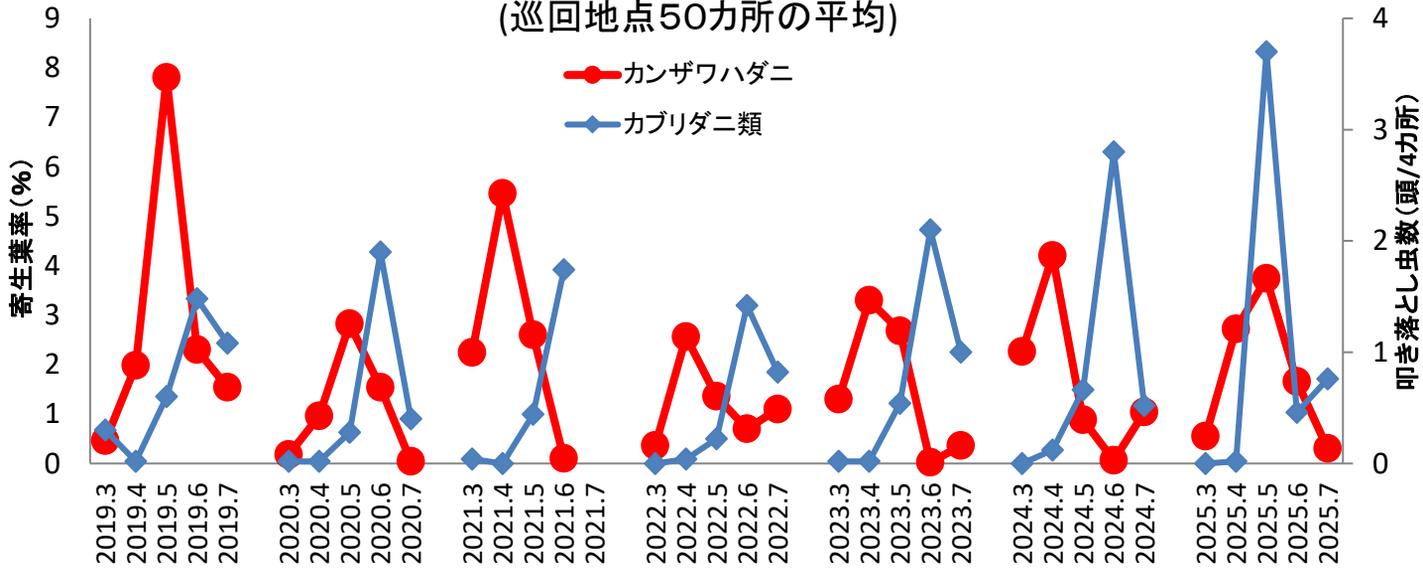
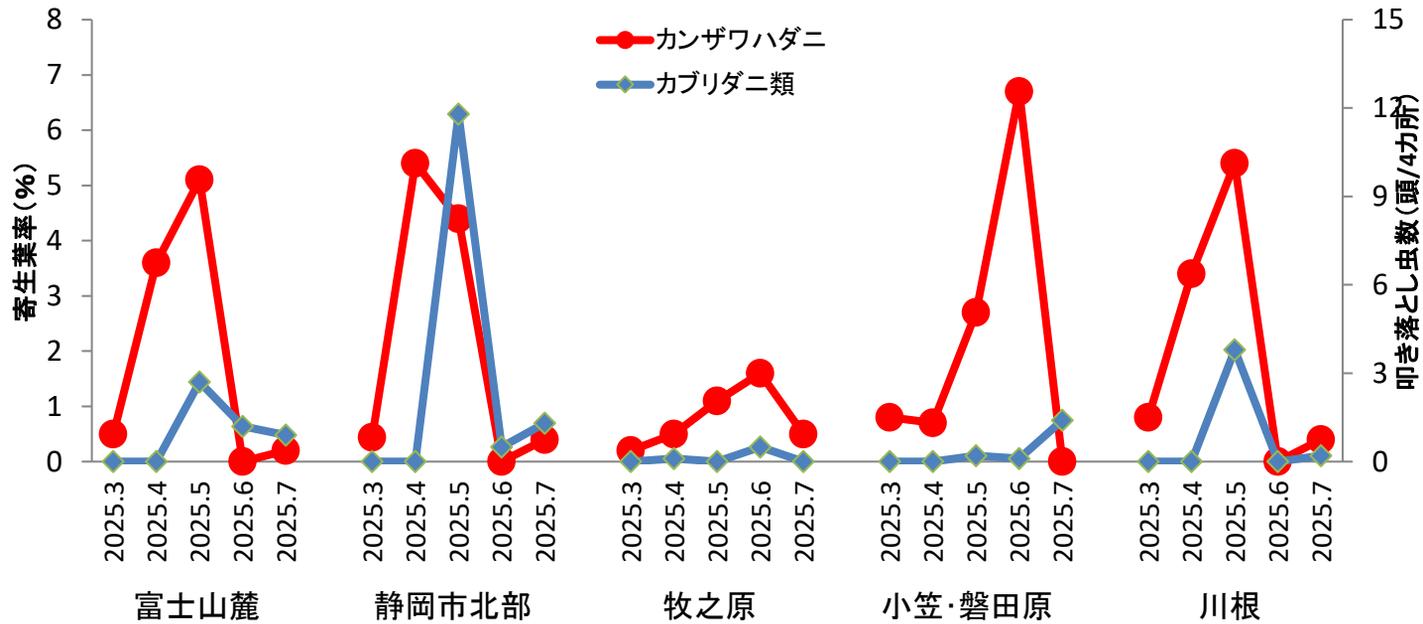


カンザワハダニと天敵カブリダニ

カンザワハダニとカブリダニの年次別発生推移 (巡回地点50カ所の平均)



2025年の地区別発生推移(各地区10カ所の平均)



本年(2025年)7月におけるカンザワハダニの発生は、平均寄生葉率0.3%(平年0.6%)と、平年よりも少なかった。天敵のカブリダニ類の平均叩き落とし虫数は0.8頭/4か所(平年1.0頭/4が所)と、平年よりやや少なかった。

地域別では、先月まで発生が増加していた牧之原及び小笠・磐田原の両地域は発生が減少した。一方、富士山麓、静岡市北部、及び川根地域では、再び発生が増加する傾向がみられた。降水量が少なく、気温が平年よりも高い気象状況が続いていることから、カンザワハダニの発生は助長されると考えられるため、今後の発生には注意する。

〈参考〉 チャを加害するカンザワハダニ

カンザワハダニは、多くの植物に寄生し葉を吸汁加害します。吸汁された葉は黄化、褐変し、奇形となったり落葉する場合があります。

冬季に茶園では低温と短日により雌成虫は朱色の体色となり、休眠状態となって越冬する個体が多いです。

休眠個体は薬剤感受性が低いため、茶園の春先の防除は休眠が明けて産卵を開始してからとなります。



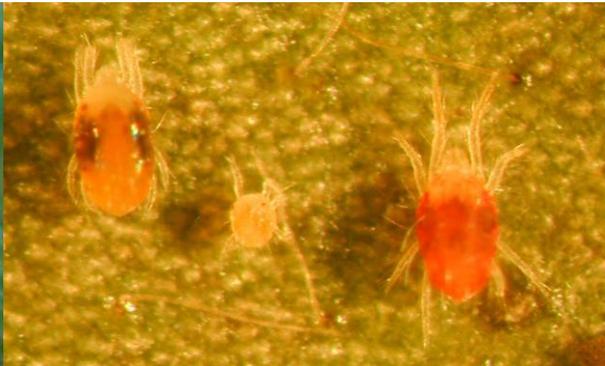
活動中の雌成虫(左)と休眠中の雌成虫(右)



越冬中の休眠雌(鮮やかな朱色となる)



葉裏に産み付けられた卵と第1若虫



第2若虫(左・右)と幼虫(中)
幼虫の足は6本、若虫以降は8本。



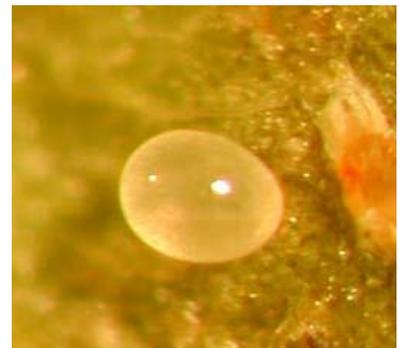
雌成虫



雄成虫



カンザワハダニを捕食中の
天敵ケナガカブリダニ



天敵ケナガカブリダニ
の卵(卵形をしている)